

大正5年5月5日木藤精一郎創立

やまゆき会会報



平成30年12月号

例会報告

六甲山地： 烏原越え 初級 B

10月6日(土) 担当:越後富美子

兵庫県南部の降水確率が50%となっているため中止しました。

伊吹山地： 伊吹山 (1377.3m) 上級 C

10月7日(日) 曇後晴 担当:藤堂節子 参加者7名

例会予告ではJR近江長岡駅集合としていたが、下山後、バスの最終時刻が早く、タクシーも呼べない実態がある等の理由で、交通手段はレンタカーとした。所要時間、費用は公共乗り物より少なかった。台風以後、ドライブウェイが閉鎖され山頂小屋が閉まっている可能性ありと教えられ、必要品は下で準備した。表登山道近くの三之宮神社にて準備体操と本日の予定を説明後出発。霧雨で雨具を着用しようかと迷ったが程なく止んだ。

1 合目までは樹林帯の中、九十九折の軽度のガレ場を歩く。ここから2合目までは元スキー場の草原で明るい緩斜面。2合目では水分補給し出発。道は中央が溝状でやや急登だが、まもなくして緩やかになると3合目の建物が見えてくる。トイレと休憩所とベンチがありゆっくり栄養補給。山頂を見上げるが霧のため山容は見えない。5合目を過ぎた頃から霧が流れて行き、6合目の避難小屋や8合目付近のジグザグの登山道が見えてくると、大勢の登山者が登っているのが見渡せ心強かった。

全員快調で、6合目の避難小屋に寄るより前へ進もうという声で休憩なし。振り返ると琵琶湖や山麓の家並みが広がり、午後は晴天の予報通りになり歓声が上がった。西方に役行者や播隆上人が修行したという平等岩が見えた。7合目から8合目を過ぎるまでは急登のジグザグの岩道、慎重に歩く。



植生保護柵ゲートをくぐると道は緩やかになった。山頂では何はともあれ一等三角点にタッチし、集合写真撮影。

山頂の小屋は閉まっているものが多くいつもの賑やかさはないが登山者は多く集っていた。寒いので日当たりが良く風の避けられる日本武尊像前の小屋横で揃って昼食を摂る。せっかくの山頂なので周囲の山々を見渡し山座同定をしたり、山頂のお花を探した。元の道をゆっくり下山、無事ふもとの上野集落へ到着。標高差1150mというハードな山行でしたが、天候に恵まれ予定より早く下山できた。皆様ご協力ありがとうございました。

コースタイム

伊吹山登山口(9:10)～1 合目(9:40-9:45)～3 合目(10:40-10:50)～7 合目(11:50-11:55)～
伊吹山山頂(12:45-13:45)～6 合目避難小屋(14:40-14:50)～3 合目(15:15-15:25)～1 合目
(16:05)～登山口(16:30)

京都盆地： 嵐山 百人一首石碑巡り 入門 A

10月7日(日) 晴 担当:安威喜雅 参加者 28名

一週間前の予報では、傘マークが出ていたのが、雨もなく夏日の気温となった。出席者を確認したら、なんと28名の参加となりびっくり、うれしい誤算。

今日の学習は国語で百人一首の勉強で嵐山周辺の5つの公園に「百人一首の石碑」があるのでそれを見てまわるものである。

嵐山駅をスタートし嵐山東公園へ、途中学校や河川敷では運動会が賑やかに行われており、秋の風物詩と眺めながら歩いた。この公園には二十一首の句碑があり、あまりゆっくり読む時間は無かったが解説を見ながら進んだ。そして嵐山公園を経て渡月橋を渡り竹林の小径へ、このあたりでは観光客が多く8割位は外国人であった。竹林の小径に入りすぐ野々宮地区、奥野々宮地区とあり、それぞれ四首、七首と数は少ない。次に長神の杜へ、ここには十九首あり、我々の聞き覚えのある句も見つ



ることが出来た。昼の時間となったので、ここで写真と昼食を済ませることにした。

ここから最後の亀山公園へ向かったが割合長い登り階段が続き、食事を先に済ませておいて良かった。保津川の見下ろせる展望台を経て亀山公園へ、ここには四十九首の石碑があるので少し時間をかけて見ることにした。あとは天龍寺の横を通り渡月橋から阪急嵐山駅へ無事ゴール。お疲れ様でした。

学校で習ったのはまじめな句ばかりであったが、解説を読むとなかなか色気のあるものが多々あり、ゆっくり読む機会が有れば面白いものと思われる。

コースタイム

阪急嵐山駅(9:40)～嵐山東公園(10:00-10:15)～嵐山公園(10:25-10:30)～野々宮地区(10:50)～奥野々宮地区(11:00)～清涼寺(11:10-11:20)～長神の杜・昼食(11:30-12:20)～亀山公園(12:50-13:20)～天龍寺(13:30)～阪急嵐山駅(13:50)

頸城山塊： 雨飾山(1963.3m) 上級D

10月13日(土)～14日(日) 担当:藤堂尚久 参加者3名

10月13日(土) 晴れ

12日梅田22時30分発・高速バス乗車、白馬駅前翌朝7時10分に到着。バス車中泊、皆眠れたようだ。レンタカー入手後、雨飾高原キャンプ場・登山口に向かう。雨飾山は新潟と長野の県境、妙高戸隠連山国立公園内、南峰・北峰の双耳峰の山。日本百名山。また、紅葉の名所として関東、東海からの登山者で賑わう。今回山行ルートは距離片道4km、標高差830mである。

雨飾高原キャンプ場登山口は、駐車場、管理棟、休憩舎など、施設が充実している。このルートには400m毎に案内標識が11枚ある。つまり4,400mで山頂である。出発して数分、湿原の中の木道沿いの沢にはイワナが静かに漂っている。木道が終わるとまもなく急登の丸太階段を歩き、登り終わるとブナ林に入る。雪の重さで曲がったブナを見ながら進むと「雨飾山頂まで120分」の標識、「ブナ平」である。林間を進む人々が赤や黄の色に染まっているようだ。ゴロゴロとした小石の道が次第になだらかになったかと思うと、水平道に変わる。「1500台地」と言われる付近だ。登山者が立ち止まり、紅葉の間に覗く岩峰・布団菱を見上げカメラのシャッターを切っている。その後、登山道をどんどん下り、「荒菅沢」の河原に降り立つ。河原の先、左手上を見上げると、こちらでも布団菱の岩峰が紅葉の木々の間から存在をアピールしている。写真では撮り切れないような美しい色合いであった。ここは休憩するに最適地、広い河原に多くの人が食事をしたり歓談したりと寛いでいる。



河原横断を終えると急登の始まり。尾根上の岩場登り、ガレもありハシゴも架かっている難所、慎重に登る。この急登は結構延々と、1時間以上続くが、妙高山系の山々が間近に見えてくる。道は次第に緩やかになり、見晴らしの良い展望ポイント「笹平」に出る。山頂までの道がはっきり見える、夏にはお花畑となる場所だ。まもなく県境稜線に到着、左方向に進むと、新潟県の雨飾山荘からのコースと合流する「雨飾温泉分岐」に着く。この先、ほぼ平坦な道を経て、頂上に到る最後の急登が始まる。夏季には高山植物が最もきれいだと言われる所だ。息を切らせて登り切り、急に視界が開けるとそこは「雨飾山山頂」である。山頂は二つコブになっており、どちらにも祠や石仏が祀られている。惜しくもガスが白く立ち込めてきて、北アルプスや立山、北に日本海を見ることはできなかった。一方、笹平方面に目を向ければ、ガスの中、登山道の道筋が「雨飾りの女神」の横顔となって、現われてきた。

下山は同ルートを下降する。下山時、特段の危険個所はないが、木の根、粘土質の道、木道等、滑りやすい個所では注意を払う。山頂で雨乞いの儀式が行われたとか山名由来はいろ

いろいろあるが、雨に飾られる山とは心惹かれるものであった。名前に反して結構な岩稜であるが、華やかな「紅葉の山」でもあった。下山後は、白馬駅前の食堂で夕食を摂り、梅池高原の宿舎へ、広い清潔な部屋で疲れを癒すことができた。

コースタイム

雨飾高原キャンプ場・登山口(9:30)～ブナ平(10:15)～1500 台地(10:50)～荒菅沢(11:00-11:15)～笹平(12:30)～雨飾温泉分岐(12:45)～雨飾山(13:10-14:00)～笹平(14:25)～荒菅沢(15:25-15:35)～ブナ平(16:10)～雨飾高原キャンプ場(17:00)

10月14日(日) 晴れ

朝起床も遅め、宿を9時に出発した。おまけのような、昼行高速バスで帰阪するまでの数時間。本日予定として、紅葉スポットの大渚山登山(3km、2時間)、同・鎌池周遊(1時間)、梅池高原散策、白馬村・小谷村サイクリングなどい



ろいろ検討。結果、今は紅葉がちょうど見頃で良いということで、八方尾根を散策することとした。先ずレンタカーで八方尾根山麓ゴンドラリフト乗り場まで行き、ゴンドラに乗り8分でうさぎ平へ、さらにリフトに乗り換え12分で八方池山荘に到着。中部山岳国立公園内、八方尾根自然研究路に沿い、高山植物の宝庫と賞される八方池まで往復2時間余りを歩いた。ハイカーやアマチュアカメ

ラマンで大賑わい、周辺の紅葉も色鮮やか、展望所からは白馬岳や白馬鑓ヶ岳などの白馬連山の眺望を楽しむことができた。山麓レストランで昼食、白馬ジャンプ競技場に立ち寄り、当地2日目はのんびり過ごし、白馬駅前15時10分発・高速バスで帰路に、JR京都駅前に21時45分帰ってきた。

コースタイム

八方尾根山麓(ゴンドラ)＝うさぎ平(リフト)＝八方池山荘(10:10)～(八方尾根自然研究路)～八方ケルン～八方池～(往路戻る)～八方池山荘(12:20)＝うさぎ平＝八方尾根山麓

秋季一般公開ハイク 六甲山地：甲山 初級 C

10月14日(日) 晴 担当:河田嘉直 参加者 27名

阪急仁川駅前に集合し、地すべり資料館まで一般道路を20分程かけて移動する。資料館前に着いた時には、汗ばむ程暖かく皆で衣服調整をする。

本日のコースの説明及び一般参加者の紹介や、準備体操等を済ませて甲山森林公園の

登山道に入る。途中で甲山の全景が一望できるスポットで小休止、本日のコースの補足説明をする。正午前、無事に全員甲山山頂(本日の最高峰 309.2m)に登り昼食とする。

午後から下山し北山貯水池から北山公園の登山道を進み無事に全員銀水橋迄帰り、夙川の川沿いを阪急苦楽園駅迄歩きそこで解散する。

皆さんの協力もあり又、天気にも恵まれ気持ちの良い公開ハイクとなりました。

コースタイム

阪急今津線仁川駅(9:30)～地すべり資料館前(9:50-10:00)～北山公園東口入口(10:25)～甲山山頂・昼食(11:46-12:16)～北山貯水池(12:40)～銀水橋(14:00)～阪急苦楽園駅(14:20)



播州赤穂：黒鉄山 初級 C

10月21日 快晴 担当:山田昭則 参加者 13名

昨年、企画し台風の影響で中止になったが、今年は雲一つない快晴である。赤穂は瀬戸内海に面した兵庫県の西の端で、忠臣蔵で知られているがそれ以外何もない町である。

今日は黒鉄山の山頂からは、瀬戸内海に浮かぶ家島群島がまじかに、そして小豆島の全貌が望め、あまり見えることのない四国も遠望できる天気の良い日であった。

JR赤穂線播州赤穂駅からタクシーで大津登山口まで行き、登山ルートの説明と準備体操をして登り始めた。荒れた林道を15分ほど登ると小さなお社の鍋森神社である。ここから分岐点までは少し急登になるが大雨の影響とあまり登る人がいないこともあって登山道は荒れていた。笹谷への分岐からは、尾根筋になるので比較的歩きやすい道を登ると標高 430.6m(二等三角点)の黒鉄山山頂である。赤穂の町と瀬戸内海に浮かぶ島々が眼下に一望できる。皆で写真を撮って、少し早い気持ちの良い秋空の下で昼食を摂った。

百間岳へは、尾根筋を西に少し下ってピークを一つ越えると40分ほどで435mの山頂である



が、黒鉄山からの下りは少し急なところもあったし、あまり登山者がいないため笹やシダが茂り歩きづらかった。百間岳山頂で集合写真を撮って10分ほど休憩し、分岐地点まで来た道を引き返した。笹谷の渡渉しながらの下りも歩きづらかった。湯内団地バス停にはバス発車時刻より40分ほど早く着

いた。登山道が荒れていたり、谷筋での渡渉箇所など登山道を見失うことが何度もあったが、本当にいい天気の良い山歩きだった。塩屋バス停で途中下車し荒神社で屋台を見るが、帰宅が遅くなるので直接 JR 播州赤穂駅まで乗って帰る方もいるのでここで解散とした。お疲れ様でした。

赤穂で大屋台(2台)があるのは、私の地元である塩屋の荒神社だけです。大屋台の太鼓は、単調であるが身体に響く音を私はいつまでも聞いていたい。そして音頭にあわせて60人あまりの男衆が両手で差し上げる大屋台の勇壮さをまじかで見ていると飽きることがないです。

コースタイム

JR赤穂線播州赤穂駅＝大津登山口(10:08)～鍋森神社(10:23-10:29)～笹谷分岐(11:15)～黒鉄山(11:26-12:01)～百間岳(12:39-12:51)～黒鉄山(13:30-13:36)～笹谷分岐(13:50)～笹谷(14:20)～県道出合(14:55)～湯内団地バス停・解散(15:19)

北摂：ホウケントウ(346.7m)～馳渡山(289.4m) 中級 C

10月24日(水) 晴 担当:石田幸弘 参加者 15名

- ・秋晴れの日が続いていたが、水曜日のみが雨の予報になった。
幸い高気圧の移動が半日繰り上がって未明には雨は上がり、体験の2名が参加してくれた。駅前始発のバスは貸切り状態だった。
- ・宝塚の北部の田んぼは機械化農業を促進する為か、2、3年前から拡張工事が進み、広い田んぼに作り変えている。玉瀬のあたりも広くなり、まだ工事中の所もある。
第二名神も開通して景観が変わり、交通量も増え、のどかな里山が変わりつつある。
- ・JR武田尾駅からバスで北に移動して、玉瀬から尾根を伝って南に引返すコースだ。
はるか南の東西に走る送電線を目指して出発、猪除けのフェンスを開けて進む。
昔は車も走っていたかと思われる道の横には廃田が続き、落葉や枯れ枝があり人が歩いた気配はない。峠の分岐で西へ、巡視路になっているのか道はしっかりしている。枯れ枝を踏みしめ、白いセンプリの咲く粘土質の坂をしばらく登るとホウケントウ(別名・奥ノ焼山)。そばに高圧線鉄塔が立っていた。自然林を透かして振り返ると古宝山が見える。
- ・分岐に戻り、南への荒れた沢道を下る。
作業小屋からの南の道は、じめじめとした湿地帯で、進むと車の音が聞こえてICに近づいた。



「安全対策・ロープワークの実習」

- ・3月に開通した宝塚北スマートICに寄りしばし休憩・見学の後に西側の三角点武田尾(点名)242.4m・四等で昼食、その後ロープワークの実習をした。
- ・第二名神の開通により登山道が寸断されて歩きにくくなったが、高速下のトンネルをくぐり南へ移動する。左に大峰山を眺めながら展望のない馳渡山へ。武田尾温泉へ向けての西のヤセ尾根下りは急、足湯には先客がありしばしの歓談、入会案内を配る。
- ・JR 武田尾駅周辺の河川は数年前の水害の復旧工事で護岸はコンクリート化され、ひなびた武田尾のイメージは無くなった。しかし広い駐車場の東側には、食堂も戻ってきてビールは買えるようになった。

コースタイム

JR福知山線武田尾駅(8:50-8:55)・阪急田園バス＝玉瀬バス停(9:03-9:20)～分岐西へ(9:35-9:45)～ホウケントウ(奥ノ焼山 点名・龍ヶ岩)(9:55-10:00)～分岐に戻る(10:12-10:22)～作業小屋(10:35)～宝塚北スマートIC(10:50-11:20)～ ρ 武田尾(点名)(11:30-12:10)～高速下トンネル(12:18)～南東尾根への登山口(12:22)～展望所(12:45-12:50)～北からの道に合流(12:53)～馳渡山(13:00-13:10)～武田尾温泉足湯・解散(13:50)

丹波高原（東部）： 釈迦岳～ポンポン山 中級C

10月28日(日) 担当:河田嘉直

台風21号の被害が甚大で、登山道が全面通行禁止ため中止しました。